



常陸
志料

郡郷考

下

ル 4
801
3



門 凡 呂 4
號 101
卷 3



常陸國郡郷考卷九

鹿島郡

水戸

宮本元球仲笏 著

風土記云、古老曰、難波長柄豐前大朝馭宇天皇孝德之世、己酉年、大化五年大

乙上、中臣鎌子、大乙下、中臣部兔子等、按續紀天平十八年三月鹿島郡中臣部廿烟占烟五烟賜中臣鹿

島連請惣領高向大夫、割下總國海上國造部内、輕野以南一里、那賀國

造部内、寒田以北五里、別置神郡、其處所有天之大神社、坂戸社、沼尾社、

合三處、惣稱香島之大神、因名郡焉、原注、風俗説曰、霰零鹿島之國。按高向大夫ハ上小高向臣トアリテ

坂東の惣領ハ海上國造ハ國造本紀下海上國造カキ輕野寒田ハ下小出カキ坂戸ハ天兒屋根沼尾ハ經津主の神ヲ祭リ云ハ不審ハ

さまト今も大神社ト此二社ト合テ鹿島三社ト云ハ其在所ハ下小あり一里五里ハ里程ハ所カキ後の郷ト云ハ神郡ノ目延喜式

常陸志 鹿島

明治三二年
一月一日
購

諸國の筑波郡不出きり猶三宅郷ふも何れ郡名ハ
神號小據るも其神號の初ハ地名と稱せしなり
國造の制

たるし時中臣氏國造と見ゆ郡領の世小改まりて天平勝寶中大

領中臣千徳あまて郡司官司々代代同姓なる事類聚三代格小載た

り按後吉田清幹子鹿島六郎成幹地頭として其子三郎政幹源右
大将家より鹿島社惣追捕使を命とらき子孫天正の末より盤踞

さるハ其始郡司職と
も兼攝とすなり

四至 風土記云東大海南下總常陸堺安是湖西流海北那賀香島堺

阿多可奈湖 按安是ハ淺瀬の義よて今銚子口と云ふ所其常陸原
と稱する鹿島郡の方ハ渚汀遠く淺々れハ安是と呼

ひたるなり阿多可奈ハ寒田小對つて其水のぬるぬると云
ふり或云可奈ハ酒うて神山彦の枯山彦なる小同沼水の淺き

故小なりと云ふ今酒沼と稱せりとされ此湖を將門記
より蒜間江と何れも考合とす湖字萬葉居名之湖ハ濱明石之

湖ハ湊と訓とるも濱と訓とる萬葉集
ふみかき訓とる處々殊小多く見えたり

和名鈔郷十八

白鳥郷 今中居村札村等の地ハ風土記云郡北三十里白鳥里古老

曰伊久米天皇仁垂之世有白鳥自天飛來化為童女夕上朝下摘石造

池為其築堤徒積日月築之壞不得作成童女等唱曰志漏止利乃芳

都都牟止母安良布麻目 斯呂唱歌昇天不復降來由是其所號白鳥

郷按今中居村白鳥山照明院有り是郷名の遺ハ藤善家譜小白鳥
郷小居り地名茂氏とを載は是ハ札村と云ふ香取應安

海夫注文小志寄武家村以下在之とあるハ此頃高家郷廢と
文白鳥郷下小志寄武家村以下在之とあるハ此頃高家郷廢と

之本文斯呂ハ歌の關文と 今江川 按烟田文書并河小作
錯て大書とすもの今江川 按烟田文書并河小作 石津今

常陸言集 卷九 三香社痛 内 等の土人其郷中なまるといふ

下鳥郷 詳ならん其次と推とハ白鳥と割と下方小置なる郷なる

鹿島郷 按山城相樂郡大狛下狛出雲能義郡楯縫口縫丹波丹波郡周

積口枳の類く口縫ハ其風土記の後立たる郷なり本郷も亦

鹿島郷 神宮の地之風土記云神社の事ハ後小出とリ神社周匝ト氏居所按占部上

小出 地體高敞東西臨海峰谷犬牙邑里交錯山野草木自屏内庭之

藩籬潤流涯泉涌朝夕之汲流嶺頭構舎松竹衛於垣外谿腰掘

井薜蘿蔭於壁上春經其村者百艸花秋過其路者千樹錦葉可謂

神仙幽居之境異化誕之地佳麗之豊不可委記其社南郡家こま

地の形勝と叙たり按社南郡家とハ今新坂と云ふ大路より東南

少鹿島氏故墟吉岡城ハ郡家の地ふハあら夫後戦國ハ築こゝ處

郡と南北二条ふつ大官司應永頃の記録小神戸原の南北と二

官本郷川以北と中村郷と云ハ神戸以

高家郷 今武井村是也按下野都賀郡高家郷弘安勘文武家小作り

上小出と按行方郡高家も其時已小郷ハ廢とリ

三宅郷 詳ならん按三宅ハ垂仁紀廿七年興屯倉于米田邑屯倉此

御田小成まら稲穀を収蔵の所ハ延喜式伊勢安房下總出雲紀

伊筑前六國ハ本國鹿島と共ハ神郡の稱ありて太神官儀式帳小

鹿島の神税と儲一所してありてか神郡として閩郡神税小供
 たる小をりたる様儀式帳不見えり或云今三田村其地なる
 一三宅音讀り竟小訛りなりん萬葉鹿島郡野橋別大伴
 卿歌あり大伴卿檢税使より下總三宅小赴も事歌不述たれを
 神宮より南なる此三田の地小事なりて鹿島郷より直小舟
 小ハ乗給ハ此地を經る輕野より下總小渡らるゝとさ色と
 三田と寒田と移し稱する地名と覺て其説
 後ひりて猶能考えて其詳を得る我待りの

宮寄郷 今宮寄村是く東小宮田郷ありて涸沼小臨める故の名を

三
按鹿島政幹子宮寄三郎家幹地頭の地

宮田郷 今磯大貫等の地是く元禄頃まてハ郷名と傳ふ年山紀聞

小見えり
按尊卑分脈小藤原巨勢磨子右兵衛弓主長子從五位下内藏助官田母常陸鹿島人二子無官助川母常陸久慈人この二人皆母の郷里を以て名づく宮田り履歴ハ三代實録小り 文德實録の大洗磯前ハ此

郷中より弘安勘文北條宮田郷五十六町九段小同十八丁一段六

十歩 古河と見ゆ
按古河詳ならん又按萬葉に岩城山直越來益磯前小奴美乃濱爾吾立將待畧解小磯前と常陸と

此此地よりと思ひし観迹聞老志菊田郡小和泉式部駒を
 む岩城の山残る形て人もおぬこの濱ふるも松んと云ふを
 引て今久濱なりと載たり式部歌々全く萬葉小本つちりなきと原書偶其出處漏たり

中村郷 今中村是く本郡南北の中央なる故小名つくる
中世南北條の界と云

弘安勘文南條中村内友安名同宿内友久名同宿内永江
今永井と云ふ田野

邊小同宿内林同宿内小佐
今山上内 同宿内保立
今孫田村 同宿内

山上同宿内片野
今詳ならん或云地勢小 同宿内安宗名
按名ハ其

詳ならん宿ハ東鑑小驛程停宿の地と云ふ勘文本郡の地小多く
 宿と稱するハ郷と云ふ如一本郡小名多きハ鹿島神官の名田

なる 皆古郷中なる 按本郷ハ鹿島族中村平次兵衛重頼地頭として子孫天正中に至る

松浦郷 今高天原より南粟生五村と云ふ所の地のなる 一風

土記云郡東二三里高松濱大海濱邊流著砂貝積成高丘松林自生

椎柴交雜既如山野東西松下出泉可八九步清淳太好 是本郷の

形勢と叙より松下清泉ハ今末より川と云ふ状流となりて海小

歸されハなり 按本郡初那賀郡不隸也一寒田以北ハ皆岡阜高原

此の所を地勢平遠ふして斥鹵の地なれば松を生じても矮小

て年を経ると小従ひて偃蓋をなると其矮松多とて以て若松濱と

中島郷 今奥谷溝口の二村其地名と遺より 島刻本鳥小作里シマと假名とり今古本小

後い訂正は按溝口村寛永圖帳中ツ 風土記 濱里 小漚之萬輕野二

里所有田少潤之とあり之萬ハ即本郷と云ふ 按奥谷溝口等の地

ある所なる故小地名二字の制ふなり一時小 弘安勘文南條下宿

内島前香取應安海夫注文嶋寄津 鹿島知 行分 とあり同地より二書

の次第と推る小本郷の端流海より差出たる所小島寄の名あり

一なる一されと今ハ其地名と失え 按其近地小柴寄村あり

其の津柴寄知行分と見えとま 是も海夫注文小志とこ

輕野郷 今神の池より南波寄小至るなり 此郷 按其地長數里小

鹵して地不草木なき處多一故不古一里を置けるのささきを

輕野ハ枯野の義なり 神の池ハ風土記寒田なるとも 此池輕

野の北界を多岐以て輕野池と呼びたるを後神の池と訛りて見ゆ萬葉集野橋の野も輕野也此地ハ風土記にも云ふ如く少潤の地なれハ橋ある處至て之ハ思ふ小此橋ハ神の池の下流小架と橋ならん今其處を失ふ 神の池ハ古

寒田池ふて下總との界風土記前後風土記云輕野以東大海濱

邊流著大船長一十五丈濶一丈餘朽摧埋砂今猶遺之原注謂淡海國今陸奥國石城船造作

大船至于此著岸即破之以南童子女松原古有年少童子原注俗曰

止古如味乃乎止賣○按子女誤稱那賀寒田之郎子女號海上安是

且下文稱の上童の字ハ稱那賀寒田之郎子女號海上安是

之孃子竝形容端正光華鄉里相聞名聲同存望念自愛心熾經月累

日耀歌之會原注俗曰宇太我邂逅相遇于時郎子歌曰伊夜是留乃

都爾由布志互互和乎布利阿是乃古麻孃子報歌曰宇志保爾波多多年止伊閑

弥由母阿是古志麻波母止奈西乃古何夜蘇志麻加

久理和乎弥左婆志理之便欲相晤恐人知之避自遊場按武烈紀立歌場衆原注

云歌場者男女集會詠和歌契交接之所也携手促膝陳懷吐憤既釋故戀之積疹還起新

歡之頻咲于時玉露杪候金風風節皎皎桂月照處咲鶴之西洲颯颯

松颯吟處度雁之東路山窈窕兮巖泉響夜蕭條兮烟霜新近山自覽

黃葉散林之色遙海唯聽蒼波激磧之聲茲宵于茲樂莫之樂偏耽語

之甘味頓忘夜之將闌俄而鷄鳴狗吠天曉日明爰童子等不知所為

遂愧人見化成松樹郎子謂奈羨松孃子稱古津松自古著名至今不

改これ大船二松ハ本郷の故事按風土記の時ハ大船二松とも

去り及今東下村の内手子后社とて鹿島の今ハ並小其所を

攝社あり安是之孃子と祭まゝ祠小似たり又云自此高松以南至

輕野里若松濱之間可廿餘里此皆松山產伏苓伏神每年掘之其若松浦即常陸下總二國之堺安是湖之所有沙鐵造劍大利然為香島之神山不得輒入伐松穿鐵也按地皆培塿少山稱其多程なるはなされと土人猶砂山と呼ぶ沙 鑛ハ鹿島海濱在處皆こまを出又云慶雲元年國司采女朝臣卜率 獨若松濱のこまを何らに 鍛冶佐備大麻呂等採若松濱之鐵以造劍之按神山なる故小 是又若松濱の故事之若松濱の名ハ上小解あり

德宿郷 今德宿村是之弘安勘文北條德宿郷神谷戸按今 烟田文書 天福二年文曆二年以下數通小德宿郷内烟田富田生江澤とあり按富田ハ郷中の地論ナリ烟田ハ伊島の屬ウ生江澤ハ茨城郡小 隸とる地小似たり當時古郷の廢とる多々也ハ烟田以北它郡の

地まとも德宿郷と稱とるハ本郷ハ鹿島成幹嫡子德宿太郎親幹地頭の地也

幡麻郷 今高濱村是其遺之風土記云郡南廿里濱里以東松山之中有^二一大沼謂寒田可^二四五里鯉鮒住之沼水流漑之萬輕野二里所有田少潤之^二こま寒田ハ今の神の池ふて高濱よりハ東小なり弘安勘文高濱七丁六段六十步平濱三十丁七段とあるハ地的高低小て郷中を二分と見え事程按寒田ハ今三田村なりと云ふ説あまとも其昔二國の界たり池とも思はる且風土記郡南廿里と云ハ濱里以東とあり小皆あたらしき色ハ寒田ハ今の神の池なる事疑ひなり三田の寒田小似たるハ偶然小 や又ハ其名を移し稱とる後三田小改めし

大屋郷 今夏海村松川と田寄村との間大谷と云ふ所なり大屋と

同訓なり是郷名の遺るふ一其地より出て田寄の東と經太田村の西より涸沼小入る小流と大谷川と稱る

諸尾郷

諸猪誤按尚書左傳共小豬瀕通用以和名鈔筑後三猪郡下總豊田郡飯猪の類此古義なりさまハ本郷も猪の誤なり

今沼尾村是此地流海一支東へさへ入其末沼河も周廻

廿町許東の岡沼尾社あり地名ハ此沼より起まる按古ハ社のあるたり皆人家なり

りり今ハ流海のさへ入於塞水田となりより人家も田を逐て流海の上小遷り舊地ハ岡沼尾と呼ひる民居なり風土

記云其社神南郡家句北沼尾池古老曰神世自天流来水沼所生蓮

根味氣太異甘美絶他所之有病者食此沼蓮イニテ早差驗之鯉鮒多住前

郡所置多時橋其實味之按夫木集右大辨藤原光俊康元年鹿島の宮小詣る歌の詞書小宮をくまして沼

尾社へ詣くある小社邊沼尾池あり其さほいささよく覺えく風土記小神代の時空より水降る蓮の生た多小とまを服するものハ不老不死なりと聞ゆと此頃を古事に成まりとあるハ臆記の誤もあると其時已小蓮ハ生をよりと前郡所

置ハ風土記より前小此地小郡家句と云ふ按今山上村小沼尾彌十郎

館趾と云ふ所あり沼尾社よりハ西七八町坂戸社よりハ又稍南二三町もある一其墟形勝より古郡家の趾小沼尾氏の據と

るなり一其處より下坂と大門坂と云ふ坂戸の地名も此坂より買ひたる坂戸社ハ沼尾小さへ入る流海の南涯小臨む

今ハ皆水田とな沙彌本光蓋沼尾氏應安五年讓状鹿島大宮沼尾宿

内田野邊蓋貫今田谷村の後沼谷沼尾田谷二村の大坂戸今田谷

東濱今赤石清水并野今高天原西北及大宮棧敷一問地頭職事と

ある地名ハ郷中なる一鹿島大禰應永廿一年寄進状小も沼

尾郷尾郷 按此郷ハ林頼幹長子沼尾平太重幹地頭たり本光弥十郎等ハ皆其子孫なり

新居郷 詳ならず 按和名鈔諸國小同名の郷多くして其訓ありハル比井又ル比乃井云云鎌倉の荒井舊ハ新居

こと果して然らハ本郡高家の東海濱小荒井村あり是本郷なり或云鉾田村の西當麻村の北新里村あり是新居を名と因て考ふるに畑田文書延文二年畑田河内守幹連讓状小安房郷新里村あり安房ハ徳宿親幹安房權守と稱をまを徳宿の郷地とも併吞し其威權より地を安房と名つけたるよりやと思ハ其屬村新里ハ古郷の地ははらるる胤信筆記天正十二年八月七日武田よりにつさと働と云ふ事も見えたり

伊島郷 今飯島村是 按新治郡井田郷今茨城郡飯田村なりと同其北隣汲上村小飯島山大悲寺あり其

地も郷中なり且飯野文書建武四年長倉義綱汲上と發し陸奥小赴く伊賀盛光往てこま小會とぞ役見社ハ其頃ハ驛とも兼たるに似たり

上島郷 詳ならず 按下島の例あり伊島を割て西北の方小置たる郷なりとさきと古文書傳説とも小此郷の名

と見聞
と次

風土記云以南所有平原謂角折濱謂古有大蛇欲通東海掘濱作穴蛇

角折落因名之或曰倭武天皇停宿此濱奉羞御膳時都無水即拔執

鹿角掘地為其角折所以名之 原云以下畧之○按角折濱ハ荒野村

白鳥の次小叙せり其地より東ありたり以南と云ふつらるる何處より以南と指せるや知るつらるる又何郷小隸せしとも臆度難因て諸郷の末に附載せり

右十八郷古今變遷なきの名ならん文祿以後を行方郡當麻郷を増益し今の鹿島郡を季

神名帳鹿島郡二座並大

鹿島神宮名神大月次新嘗

鹿島郷小何り風土記云清濁得子天地草昧以

前諸祖天神原注俗曰謂賀味留彌賀味留岐會集八百萬神於高天之原時諸祖神

告曰今我御孫命光宅豐葦原水穗之國自高天原降來大神名稱香

島天之大神天則號曰香島之宮地則名豐香島之宮原注俗曰豐葦原水穗國所依

柁奉上始留爾又石根木立草乃片葉辭語之畫者狹蠅音聲夜者火光光明國此乎事向平定大神從上天降供奉之○色川三中曰上始止

詔誤上其後初國所知美麻貴天皇崇神之世奉幣大刀十口鉾二枚鐵

弓二張鐵箭二具許呂四口按胡篠音枚鐵一連按朴鐵誤練鐵一連馬一疋鞍

一具八咫鏡二面五色純一連原注俗曰美麻貴天皇之世大坂山乃頂爾白細乃大御服坐而白柁御杖取

坐識賜命者我前乎治奉者汝聞勝行看食國平大國小國事依給等

識賜岐于時追集八十之伴緒舉此事而訪問於是大中臣神聞勝命

答曰大八島國汝所知食國止事向賜之香島國坐天津大御神乃奉

教戒事者天皇聞諸即恐驚奉納前件幣帛於神宮也○按尊卑分脉

神聞勝命八天兒神戶六十五烟原注本八尺難波天皇仁德之世如

屋根命七世孫淡海大津朝天智初遣使人造神之宮自

奉九尺庚寅年持統朱鳥四年爾以來修理不絕年別七月造舟而奉納津宮古老曰倭武天皇之世

編戶減二戶令定六十五戶天之大神宣中臣臣狹山命今社御舟者

承大命無敢所辭天之大神昧爽復宣汝舟者置於海中舟主仍見在

岡上又宣汝舟者置於岡上也舟主因求更在海中如此之事已非二

三爰則懼惶新令造舟三隻各長二丈餘初獻之按是御舟祭の緣故之北條時鄰曰津宮

津東西社ともいひく大船津小近き下生村の入口小あり吳竹
集よりいりこいの山とよめる所之東西とハ香取社の津宮小
對えく云ふ之臣狹山命ハ姓氏錄巨狹山命荒木田系圖大狹山命
小作尊卑分脈鹿島大官司系圖並臣狹山命小作此人續紀意
美佐夜麻といふハ巨大
小作ハ誤なり
又年別四月十日設祭勸酒卜氏種屬男女

集會積日累夜飲食歌舞其唱曰安良佐賀乃賀味能彌佐氣乎
多義止伊比祁婆賀母與和我惠比
爾祁按四月十日の祭今も行ふ續紀寶龜八
年以上皆神宮の故事之續紀寶龜八

年七月乙丑叙鹿島神正三位續後紀承和三年五月丁未奉授從二
位勲一等建御賀豆智命正二位六年十月丁丑奉授建御賀豆智命
從一位文德實錄嘉祥三年九月乙亥朔奉叙建御賀豆智命正一位
餘ハ鹿島長
曆小あり

大洗磯前藥師菩薩神社名神

今磯濱村大洗小あり文德實錄云齊

衡三年十二月戊戌常陸國上言鹿島郡大洗磯前有神新降初郡民

有煮海為鹽者夜半望海光耀屬天明日有兩怪石見在水次高尺許

體於神造非人間石鹽翁私異之去後一日又有廿餘小石在向石左

右似若侍坐彩光非常或形沙門唯無耳目時神憑人云我是大奈母

知少比古奈神也昔造此國訖去往東海今為濟民更亦來歸天安元

年八月辛未預官社十月己卯奉神號曰藥師菩薩名神按神名帳頭

已貴酒列と少彦名とありハ二所小今祭と云ふ小史小宮
社小なりたるも神號と授てハ皆同年同日して殊更菩薩の稱
も同一されハ分祭と事必たり其菩薩と稱するハ形沙門と
る小因てハ神階ハ仁壽元年以後の官社なれとも正六位上より

常陸國郡郷考卷九

推算されハ明應十年まで
てハ後二位小至まり

式外贈位神祠

於岐都説神 今息柵村息柵明神按息古訓於木和名鈔駿河廬原郡息津訓於木都其風土記興津

沖津小も作る今此社ハ鹿島の攝社と唱え訛まり香取攝社小も同神有りて其文永中文書小於岐柵社一字と何是息柵の於木柵を多と証をくさのこ小あらは亦於岐都説の息柵な多を知り於岐都説ハおさつをく此地
幡麻郷の内流海小臨免多の最な多を以てたさそと云ふ都ハ助
語ハ祭神ハ住吉三神小同くと云ふ新和歌集笠間長門守藤原時
朝鶴立社十首歌小鹿島瀉おさすの森おさすさすふねを
留てそ初音聞都るこさそ亦おさすとよ免るを見るく三代

實録、仁和元年三月十日乙丑授正六位上於岐都説神從五位下、按此

後天慶三年よりの贈位と推とハ
明應十年小正三位な多應

常陸國郡郷考卷九 終

常陸國郡郷考卷十

那珂郡風土記作那賀

水戸 宮本元球仲芳 著

本郡ハ風土記其首と畧をり建置乃始と知る小由なし那賀那珂の

地名諸國小有りて皆中の義ハ初常道の域畧定まり時より其中

より地少く那賀と稱とハ風土記の初小見えより古事記神武

卷云神八井耳命者常道仲國造等之祖也風土記行方郡條云建借間

命崇神朝平東夷即此那賀國造初祖取其大意國造本紀云仲國造志賀高

穴穗朝御世成務伊豫國造同祖建借間命定賜國造按同書伊余國造志賀高穴穗朝御世印

藩國造同祖敷析彦命兒速後上命定賜國造印波國造輕島豐明朝御
代應神神八井耳命八世孫伊都許利命定賜國造こま本文小舉たる

水落洞深其流入戀瀬川又云戀瀬川那珂郡名勝也こまふて考れ

ハ入本郷村即本郷ふして上小聳る鷲子山其郷名を負ひ山より

發をる小瀬川と戀瀬川とも呼ひたる也按大和葛上郡朝妻ハ仁德紀小阿佐豆麻近江坂

田郡朝妻ハ天武紀朝嬬萬葉旦妻姓氏錄朝津間續後紀承和元年

小朝妻造清主たり朝妻の名義ハいさ考ひ得る又鷲子山又鳥

子小作る和名鈔參河碧海郡鷲取訓和之止利なる也此川の事ハ

兵部式鳥捕山總國風土記鳥取山小作る小於たり

常陸國誌頭書小も戀瀬川ハ小瀬川ハ越瀬川とも云ふと何まを
早くより心付おふ人も何まを按小瀬川と戀瀬川と云ふハ和歌小讀まん料小便マを

と計

吉田郷 今茨城郡吉田村是也藥王院安貞二年田檢注目錄應永廿

八年注文等小據るに其頃吉田酒戸河寄細谷吉沼山本と六郷小

分きたる地皆本郷の内と見えたり按河寄山本ハ今水戸城下の地たり川寄町存り山本ハ

竹熊町のあたりり武熊の名も早くより見えたり吉田社嘉元神事目錄小吉田九村と何れ

ハ郷中と云ふ小似とまて上の注文の内酒戸川寄を除き其頃吉

田郷と稱する地のこなり按九ヶ村ハ神事目錄小吉田千波村吉田郷拂澤藥王院應永九年大祿宜大舎

人恒成寄進状小吉田郷之内阿佐村今淺野臺と云ふ吉田社嘉元

四年大舎人重恒讓状小吉田社權現祝名田信田尻村田畠在家と

と各一村之吉田社延慶二年状小吉田郷笠原村あり是千波拂澤阿佐信田尻笠原五村ハ其目知る一其餘四村ハ今米澤福澤古宿等の地あるとも此九村小前五郷と合さる古郷の地と見えたる其旧名ハ傳はらる

按此地ハ中世多氣重幹二子吉田次郎清幹地頭として支庶那珂東西小蕃延きり又此郷と本として吉田郡と稱す

岡田郷 今柳澤村岡田と云ふ所あり且其鎮守と岡田明神と稱す

是郷名の遺 按明神ハ今三段岡柳澤二村の鎮守と中世ハ一郷の大宮として郷名を負ひて祠中の古祝文小岡

田坐岡田明神とありと云ふ今こまを失ふ

安賀郷 今茨城郡有賀村是なる一 按鹿島久壽神領目錄那珂郡内ありと見ゆ

大井郷 詳ならざる 按神名帳那珂郡大井神社あり郷ハ必神社の地鳥明神ハ即大井神社之今ハ水廻れとも古大井なりと云ふ所も何と因て考ふる其地ハ親鸞傳小那珂西郡大部郷として大部

平太郎ハ在所之六蔵寺藥王院等過去帳加倉井系圖とも小永祿天正の頃大部平あり延享元年飯富と改免いひとと呼ふと云ふ飯富ハ元來おふの訓より大和十市郡飯富小同しく十市郡ハ綏靖紀多臣の郷里として式多坐弥志理比古神社も有り上總望陀郡なるハ和名鈔飯富小作して訓於布之甲州の士飯富兵部少輔ハふを濁音小唱ふる錢見まら大部ハ舊より飯富とも書さる小やさきハ延享ハ其唱えを改免して多てなふ一叔大井と於布於不との唱ふるハ思東をたれハたうにそれとも定めり一又或云今那珂郡向山村小ねも井と云ふ地有り行方郡大井も土人もも井と唱ふるもあも井ハ即大井之下江戸村小古井有りて不淨の用を避る為小常小注連を曳き是向山より此あたりハ古郷の地より古井ハ即大井なりとされと此あたり絶て舊社の大井社不當つべきものなり

河内郷 今上中河内二村是之 按鹿島久壽目錄上中下河内あり今西蓮寺村ハ必下河内之 風土

記云自郡東北挾粟河而置驛家 原注本近粟河謂河 粟河ハ阿波郷内驛家今隨本名之

と經て來れる故の名して那珂河の古名なる河を挾きて驛家ふる
戎以て驛長宅ハ河西常石郷小あり今長者屋敷と云ふ注ハ河内の名

義之此頃已小郷の事と兼たり畧本方まハ知るら次

川邊郷 今野口平村の内川の邊と云ふ地なり是郷名の遺之按和名鈔

大和十市郡川邊訓加ハ乃倍山城葛野郡川邊駿河安倍郡川邊並
訓加波乃倍又按小野壽譜此地ハ伊勢守藤原公通二子川邊大夫
通直始て居る其子通資那珂郷小遷り那珂氏より

常石郷 今茨城郡常葉村是之風土記云當其以南内泉出坂中水多

流尤清謂之曝井綠泉所居村落婦女夏月會集浣布曝乾原云以此下畧之此

曝井ハ袴塚村瀧坂と云ふ那珂河の方へ下まる坂中小あり今

清水の涓流をものも其近きところ曝臺と呼ぶ所も有り

と昔曝井ありと布と乾いたる地と見えたり萬葉集那

賀郡曝井歌ハ三粟乃中爾向有曝井之不絶將通彼所爾妻毛我

ハ即是して主計式瀑布ハ此處より貢と中爾向有と云ふ

此頃粟河已小那珂河と云ふ按尊卑分脉源頼信五男常葉五郎義政此地小居り後三世政廣地と失ひ

て國井源ハと改稱其後石川家幹四男常葉四郎國幹地頭の地より大掾系圖小見えたり

全隈郷 今茨城郡又熊村是之按鹿島久壽目錄那珂郡内またくま

日下部郷 三字の郷名誤まるハ論を按和名鈔伯耆河村郡備前上道郡並日下部郷ありて訓

若佐加倍なり日本靈異記ハ早部小作まり今茨城郡上泉村小草

掛明神つらみは是日下部の大宮おほのみやなり俚語の訛あやまりなり事明ことあきららむ

さきまさきま此地このちハ日下部郷ひつがほ也なり按日下部ハ古事記仁徳卷ハ大日下部若日下部わがひつがほなり姓氏録ハ其姓あり神武

卷ハ八日下部之蓼津あしづあり

志萬郷 今茨城郡島田村及島新田等の地是なり酒沼の下流

小阿波ハ當時島嶼の形勢なりと見ゆ

阿波郷 今茨城郡大山栗野等の地是ハ大山ハ栗山くりやまトて式阿波山

神社しんじやなり中世大山ト上栗かみくり也なり大山阿弥陀院天文廿三年七月しちがつ鐸たつ口栗

野ト下栗したくりト云ふいふ鹿島久壽目録那珂郡下したありありさきまトありあり中栗なかくりトありあり増井

正宗寺舊記ハ正法院ハ行義ぎやうぎ也なり竹弘安年中御建立同被鑄鐘同那珂

西郡阿波郷六百貫の所ト寄附此内小除く地ハ栗殿五町五間鎌

倉圓覺寺領の寶歸菴ほうきくわん也なり按佐竹義盛弟栗刑部大輔義有ぎゆう税所貞治

中配符小那珂西栗郷にしぐりなり此頃このころトてハ郷名ト稱なづなり風土記

栗河も上游小本郷ほんごうなり故の名なり神社ハ少彦名命すくなひこト祀まつる

云ふ神代卷縁栗莖くりくきの故事ト云ふ地ハ祀まつるト又ハ神社

ありて後の地名なり不審ふしん

芳賀郷 今茨城郡栗寄村鎮守ト芳賀明神ト稱なづるハ是本郷ほんごうト

て明神ハ其大宮おほのみやなりなり按和名鈔下野芳賀郡音波加ねはト郷同

芳賀はらト尾張智多郡番賀ばんがト同義ト似に風土記云い原云最平津驛家

西一二里有岡名曰大櫛、上古有人體極長大、身居丘壟之上、採鱗食之、其所食貝積聚成岡、時人取大朽之義、今謂大櫛之岡、其大人踐跡

長卅餘步、廣廿餘步、尿穴跡可廿餘步、原云以下畧之平津、今平戸村、按地

名津の戸小轉と一處枚舉小勝え以此地那珂河涸沼落合の所小く津濟今も有り西小東前村、按藥王

院曆應文書遠廐小作、六段田六藏寺過去帳、天正の頃東馬屋小

作る驛馬と置、所と見え、按那珂河と渡りて勝倉村小長者屋敷、はるる是海濱の驛道、其

上、行方郡曾祿驛、大櫛、今大串村、按取大朽之義、ハ其貝殼の委積して朽る

云ふ、今大串の坂路と下り塩寄と云ふ所、小祠、傍

小多く貝殼と出る處ありて土人も猶大人の事を傳説をり二村ハ皆本郷の内、はるる此驛後廢と、ハ兵部式、小載、を

石上郷 今茨城郡下青山村石神と云ふ所、はるる是石上の轉、はるる郷

名の遺、はるる按和名鈔大和山邊郡十市郡備前邑久郡石上ハ

本郷と訓、且隣接小石塚と云ふ地、はるるも其郷中なり、ハ按石塚

と異、ハ族石塚三郎宗義、ハ城趾、はるる其内櫃山と呼へる、ハ小祠、はるる側

土中より破裂とる形状の石と出す、隨て掘、隨て出、ハ大小數百

千盡る事なり、ハ土人傳説古昔久慈郡石奈坂、ハ小怪石、ハ漸長大、ハ小

石奈坂、ハ小留、ハ一ハ今那珂郡石神、ハ不至、ハ一ハ即石塚、ハ小至、ハ今地

中出、ハ所ハ是其石なりと荒唐の談、ハま、ハ此地ハ石と出、ハ故

小石上、ハとも呼ひたるなり、ハ鹿島郷 今茨城郡古内村等の地、ハはるる、ハ三代實錄云、ハ貞觀八年

正月廿日、ハ丁酉、ハ先是常陸國鹿島神宮司言、ハ鹿島太神宮惣六箇院、ハ二

十年間一加修造所用材木五萬餘枝

中畧按惣六箇院の目ハ止由氣宮儀式帳小見ゆ参考を

採造官材之山在那賀郡去宮二百餘里行路嶮峻挽運多煩これ

本郷と鹿島と名付けたる由して定例造官の材と出とふを以て

遂ふらくハ名と得たるく其地鹿島宮と去る二十餘里ふまざる二

百餘里と何れも當まざる

按安居院某神道集云鹿島大明神ハ天照大神第四ノ御子也天津兒屋根命金鷲ニ

駕シテ常陸國へ天下リツ古内山ノ旧跡鹿島里ニ顯ル其間幾

千年ト云フコトヲ知ラス又云鹿島大明神者常陸國中郡古内山ニ天下リ其後國中ヲ廻

リ鹿島郡官處ニ御在所ヲ定ムこま本末顛倒の傳會なること古内

ハ鹿島郷なるを知らず由り今其地清音寺境内小鹿島宮立と

按上古内村鹿島祠

小勝村鹿島祠并奥宮塩子村鹿島祠又鹿島と云ふ所孫根村鹿島と云ふ地は又岩船村も近地して其神社ハ天鳥船神とも稱し鹿島神と共小天降と功あり神也其村ハ皆屬村たる一廿年小一度宛五萬餘枝と採まると其地の廣き想ふべし

茨城郷 今茨城郡小原村是之音乎婆良ハ中世大茨と唱えしり

轉したる

按正宗寺藏書大茨とあり旧茨城郡の本郷なるを以て大と云ふ其解行方郡多珂郡の卷小出とあり 風

土記存那珂郡之西と本郡小係けたるハ其先已小本郡小入りし

かり詳小茨城郡小出 風土記云茨城里自此以北高丘曰輔時即之山古老

曰有兄妹二人兄曰努賀毘古妹名努賀毘咩時妹在室有人不知姓

名常就求婚夜來晝去遂成夫婦一夕懷妊至可産月終生小蛇明若

無言聞與母語於是母伯驚竒心挾神子即盛淨坏設壇安置一夜之間已滿坏中更易瓷而置之亦滿瓷内如此三四不敢用器母告子曰量汝器宇自知神子我屬之勢不可養長宜從父所在不合有此者時子哀泣拭面答曰謹承母命無敢所辭然一身獨去無人共去望請矜副一小子母曰我家所有母與伯父而已是亦汝明所知當無人可相從爰子含恨而事不吐之臨訣別時不勝怒怨欲震殺伯父而昇天時母驚動取瓷投觸神子不得昇因留此峯所盛瓷甕今存片岡之村其子孫立社致祭相續不絕原云以下畧之茨城郷已小本郡の地より輔時卧一小晡時卧小作る式の藤内神社と云ふ風土記ハ其起源な

了輔時と藤内假字書紀輔をふの假字小用と多し續紀神護景雲三年小吉備藤野和氣清麻呂等賜姓輔治能真人とあり輔治も即藤なり時ハしの假字を此と萬世防人歌小天地を阿米都之とあり東人の語之卧の内小轉ととも通音小あり上の通上小同藤内今ハ又牛伏と云ふ石川久徴々説曰藤内を今の牛伏村なり其南小むら山と呼へる山は是古茨城の山をさへ輔時卧之山ハ大橋村に上なる今富士山と云ふ山是ち多く按富士と呼ふもこの通ひなり小原ハ富士山よりハ南を大橋小岡の宿と云ふ所あるハ片岡の名残り也富士山の西南飯田村ハ神代の甕と稱する物ニツあり是小蛇と盛アタタ器を依へると能本郷の事哉

常陸志 卷十 三香木

盡と云々 按或云牛伏の北三ヶ野村ハ甕之村なり

洗井郷 詳ならぬは此と風土記河内驛と自郡東北と指さる方位

小據と郡家と其西南小求むる小國府又安侯らるも便りて形

勝と得たるも川和田小過る所なり是必古郡家の地とて洗井と

稱を依地たるなり 按本國の例郡と同名の郷皆郡家の地なり小

其初那珂郷なり僻遠の故不便地小遷とるなり川和田

ハ江戸氏の故墟なりを傳ゆるとも今其形勝を察する小獨江戸

氏より其の勢ふるなり江戸氏ハ却て郡家の故資小據たるなり

一或云洗井ハ新居小通とる郡家と移ると云ふも由り

中山信名曰洗井ハ隱井の誤今加倉井村其地ハ隱井ハ香取文書

鹿島日記等小其文字見えて風土記小溪腰掘井ハ薜蘿陰於壁上と

もりりて今も其地小加倉井と云ふ井ありて地名ともなり其

義ハ幽隱の井と云ふ郡家の川和田小ありも其郷中の地なり

一此邊郷名の地稀疎なりハ必 一郷と置く一と是又一説也

那珂郷 今那珂村是之郡名と同一とる上古國造の居地なり小

や 按風土記河内驛西南小郡家ありハ郡領の世となりてハ此地

早く墟となりたるなり江ノ氏の先藤原通資此地小在り

那珂氏となりハ故資の猶據る小足るありハ文保元年

熊野願文小常陸國那珂東郡住那珂四郎盛通同五郎通泰とあり

ハ此頃子孫本郷小居たりハ太氏中世豪族郡家又郷名の地

と以て氏と云者多しハ各其地の故資小據る所なりと以て

八部郷 今茨城郡谷田部村是之 按名義の解ハ河内郡小あり此地

武田郷 今武田村是之 按北隣菅谷村小武田山不動院ありハ其村

武田刑部三郎義清此地と以て氏と云る小似たり 武田系圖甲斐武田の地なりと云猶能考ふ

幡田郷 今部田野村是なり

按和名鈔河内茨田郡遠江長下郡並幡多音判多相模餘綾郡淡路三

原郡並幡多音波多參河渥美郡幡太大和高市郡波多二所音なり此地ハ何とよみたりん

北隣白方村埴田祠

舊記小戸田郷平磯寄と云ふ文ありと聞あり

原文ハ和銅二年七月七日戸田郷平磯

寄出現とありと云ふ何頃の舊記なりや

鹿島康永田牧注文小吉田郡戸田野鳥巢無

量寺鹿島氏康永元年知行分注文小戸田野郷鹿島大祿文書小

戸田野郷石川舊記小戸田野

按二書ハ年號なり共小天正前の物なり後部田

野小改む

右廿二郷の内大井一郷ハ其所知るべからず其餘那珂河の西小

中世那珂西郡と稱せし地なる入野吉田安賀常石全隈早部志

満阿波芳賀石上鹿島茨城八部洗井十四郷ハ文祿より茨城郡小入

那珂河より東小那珂東郡と稱せし地なる朝妻岡田河内川邊

那珂武田幡田七郷小又慈河の西小中世又慈西郡と稱せし地

る八部倭文美和神前木前五郷を加えて今那珂郡なり其地ハ全

那珂河の東又慈河の西より按中世又又慈河より東ハ佐都川と

郡と稱し三分小より東鑑治承四年小佐竹々常陸奥七郡を領し

何多々此那珂西郡よりの六郡小多珂を加えて七郡と云ふ其實ハ

那珂又慈多珂の三郡之税所應永切手員數小と云と奥七郡

と稱し奥郡ハ深奥の郡より續紀延暦元年已小陸奥奥郡あり

神名帳那賀郡七座

大二座小五座

大井神社

詳ならし説大井郷の下小出た

常陸志斗 卷十 那珂 三香社

青山神社 今茨城郡青山村 小何々 按社傳五十猛命を祀ると云ふ 神代紀云初五十猛天降之時多

將樹種而下然不殖韓地盡以持還遂始自筑紫凡大八洲國之内莫 不播殖而成青山焉所以稱五十猛命為有功之神即紀伊國所坐大 神是也この地石上郷の内を多々一神階ハ仁壽元年正六位上より 推算され多明應十年小正三位へ土人云往年此社側の古塚小 大松あり一と掘り起さし小大なる瓦焼の人の頭出たり全軀小 なる其餘ハ瓶の如きもの破れたるり多くあり一とそ

吉田神社 名神 今茨城郡吉田村 小何々 按相傳倭武尊を祀る且第 三宮と稱さるる熱田社の

稱小從いさるる源平盛衰記小尾 張國第三宮熱田社と見えたり 文德實録天安元年五月壬戌從

五位上勲八等吉田神授從四位下三代實録貞觀五年八月二日壬

戌授從四位下勲八等吉田神從四位上元慶二年八月八日辛未授

從四位上勲八等吉田神正四位下日本紀畧寛平九年十二月三日

甲辰授位一階 按類聚符宣鈔大和社注進狀等小も 此事見えたり此時正四位上なり 後天慶三 永保

元 永治 元 治承 元 曆 建仁 元 元世の贈位何さハ竟小正一位

小昇王給ひしなり 本社所藏建曆三年辨官下文小ハ天慶中

依別勅願寄加封戸奉増神位とも見えたり 按本社文書と檢むる 小初社職ハ吉弥侯氏

後小槻氏今ハ田所苗字にて大舎人部姓之萬葉天平勝寶七年那 賀郡上丁大舎人部千文あまを本郡の舊姓なり吉弥侯部ハ豊城 入彦命小出て上下毛 野朝臣等々族なり

阿波山上神社 今茨城郡大山村 小何々 按祭神郷の 所小出は 三代實録仁和

二年十二月九日癸丑授從五位下阿波神從五位上 按歴代の贈位 して明應十年

より正三位 なるなり

常陸志斗 卷十 那珂 三香社

常陸志斗 卷十 那珂 十三 三香土

酒列磯前藥師菩薩神社名神 今平磯村酒烈小作 今式古

本及史小從六段田六蔵寺瑜祇經口傳真書小貞和五年吉田郡
逆頼神官寺書寫とつる是亦酒列の一証之大洗小例をれハ此地
酒列と云ふ所之神宮寺ハ
日照沼村如意輪寺文德實錄天安元年八月辛未大洗磯前

酒列磯前神等預官社十月己卯大洗磯前酒列磯前兩神奉神號曰

藥師菩薩名神實錄齊衡三年の文ハ大洗小載に按祭神ハト部兼
俱神名帳頭注小大洗と大己貴本社と少彦名と記

を史小同日官社とを同日同神號奉と見まると兩惟石こ
廿餘小石と兩地小分祭と見えたり本社ハいつの頃より
廢と一を寛文三年小其社趾を發して舊地を多を知り再興以
事茂舊國誌小載とて地を發して石棺を得たりとつるハ葬埋の
地の如くなまともそれと全く措辭の失りて當時分祀の時其
惟石等と石櫃小納免瘞藏と見えたり神階々仁壽元年後の
神なれとも其初と正六位上ととん小貞觀元年
贈位と明應十年小從二位なり

藤内神社 今其所詳ならぬ 按本社の起源ハ風土記小見えたる事
ハ茨城郷の下小舉りされど其社ハ

今何處なるや詳ならぬ其地小就て考るに谷津明神此神社を
らめ今大足半伏田島黑磯三輪谷津三野七村此社を以て鎮守と
其其古社たる事思ふハ此社と土人又つこの社と云ふ久慈
郡式社と同稱の如くなまとも此社を和光院過去帳天正の頃小
タテノタテ野館ノなとも有りて古く此地の稱と有り古語小頓
蛇を多知波美と云ふ小ありてつこの社を龍の社の義と見
えたり

石船神社 今茨城郡石船村小 按社記鳥石楠船神と祀る古事
記云次生神名鳥之石楠船神亦

名謂天鳥船又云尔天鳥船神副建御雷神而遣是以此二神降到出
雲國伊那佐之小濱云云この地を鹿島郷の屬を多ハ社側の一
大石長二丈餘其形船の如く中窪くハ常小清水湛然たる早歳
小其水を濞して雨と請ふ小屢驗有り其石下清流ありて岩船川
と云ふ水流中小石亦悉く船の形をなす又社の上を向山上小
も一丈又ハ五六尺なる船形の石枚數を疊らるる岩船川下流又

常陸言米

卷十

三香本

木葉の紋ある小石と出で葉片
三代實録貞觀元年四月廿六日、辛
小碎さても木葉紋愈鮮明之

亥、授正六位上石船神從五位下
按神階ハ此後贈位九度ありき
明應十年小正二位なり

保庄 私稱郡 私稱郷 沼河

國井保 今國井村之弘安勘文嘉元田文共小國井保二十六町五段

大さ何里
按尊卑分脈常葉又太郎政廣後國井源八と稱を鹿島大
祢臣文書小據るに政廣罪を源範頼小獲て亡命し姓稱

と變りて保司となり國衙所管の地小逃またり鶴岡應永七年
文書小常陸國那珂東國井郷佐竹左馬助跡事よりき其頃ハ已

小保と廢
を

石崎保 今茨城郡上下石崎村之吉田社文書文永三年八月造伊勢

豐受大神宮使神祇權大輔大中臣某下文小可早止催令京濟當國

吉田社并 石崎保所課造宮米事右件兩所止使催可令京濟之由領
家所被申請然則早可令存其旨と有り誰人の所領なりや
按弘安勘

文此保なり嘉元田文石前三
十五町と有りて保の字なり地頭ハ石川家幹子石崎禪師房なり

了の佐竹義篤康安二年正月讓状ハ小田御前分
義篤の女小田孝朝妻

吉田郡石崎保と有り其頃ハ佐竹氏の地なり

吉田庄 東鑑建曆二年六月小常陸國吉田庄地下沙汰人等濫妨本

所所務三つを
按本所ハ預所小對
一て領家を稱する
藥王院元徳三年雜掌阿闍

黎祐真々和與狀小近衛北殿御領常陸國吉田社領
按嘉元田文吉田社百五十八

町六
段半
と記したる建曆の前より近衛家の庄之藥王院曆應文書

常陸志斗 卷十 那珂 十五 三香木

小大羽公田十七丁一段十五歩と云ふ事あり大場村とて其村

善福寺彌陀堂棟札小天正十三年酉二月常州吉田庄大場村と書

ありハ其庄内なる小公田ありて吉田郡と稱と一地皆庄小ハ何

ら

鹽籠庄 東鑑脱漏嘉祿元年九月故大夫判官光季 伊賀光季承久三年 京都高辻にて誅と

ら遺領事有其沙汰彼子息四郎秀村等拜領之常陸國鹽籠庄和田

平太在柄 胤長知之之ここ今茨城郡塩子村とて在柄平太り闕所を

里と光季より秀村とて地頭と一何人の何頃小建とる庄を

アケん無量壽寺康永文書小ハ鹿島利氏り子左近大夫將監貞綱

地頭なるをと佐竹義篤小掠免られ高師冬に訴へて旧小復した

りとの幾程なく又失ひしふや義篤り康應の讓状小ハ其地と載

たり 按佐竹家士系圖和田胤長り遺胤ありて佐竹 氏小仕ふ和田安房守昭為も其後なりとそ

吉田郡 將門記小吉田郡蒜間江とありて本國の内私小稱とる郡

名とてハ最古一嘉元田文吉田郡二百廿三丁一段内恒富倉員 按吉

田社仁平元年留主所牒小も吉 按大使役記も塩井 田郡倉員あり今其所を失ふ 河氏あり今其所同上大野

石前武田大戸長岡中野根 今詳な平戸馬渡石川戸田野とあり皆

其地の目之又大掾傳記小吉田族の姓氏葛蒲井中山方波見 並上 石寄

地の石崎大戸石河盛戸 今森島田大野平戸谷田部勝倉武田堀口市

常陸志斗 卷十 那珂 十五 三香木

常陸志 卷十 那珂 十六 三香本

毛猫寄大戸の地 蛭町、大泉並下大、道理山三段田、八辻按其所詳からず

小贈る書小やつむいやはりの内と云ふ事あり八辻小似たり今八文字と云ふ苗字の人ありを此八辻やつむいの轉と云ふや

常葉、宇喜又字木浮小作、袴塚等ありを以て郡境の概畧と知る

其域ハ今小鶴川と西界として其東北より那珂東小渡まで其

南邊小若干あり按藥王院延元二年、觀應三年、文和二年、貞治

五年、應安元年等文書、吉田社應永三年文書、稅所應永十七年文書、及切手員數、大永の頃諸草心車

恒富郷 石川家幹六子恒富六郎高幹按東鑑仁治二年恒富兵、地頭衛尉あり此人小似たり

の地ニ藥王院建保六年文書、恒富郷内真美穴林村、又曆應文書、恒

富郷内、大羽大、塩前塩、大串、矢田谷、六段田、石川、森戸、入野、鹿島、康永

田牧注文、小吉田郡恒富平戸村、地勢よく推さる上の數村、小東前

栗寄二村と加えて此郷を多く、其餘嘉元田文、小吉田郡恒富、石

川阿弥陀寺、天文三年鰐口識、常州吉田郷恒富里、石川村圓照寺な

ともありて私稱とハ見ゆまて顯またりし郷名を

涸沼 風土記阿多可奈湖、將門記吉田郡蒜間江ハ皆此沼の稱小

て今涸沼と唱ふるハ蒜間の轉とるなほハ此沼上流ハ今郡西

北真端古新治、小發、笠間の西より來栖小至り西來の流と合

東流して下土師小至り又西來の小流と納ま安古して北來の

小流と納ま小鶴少く北來の鯉淵川と合し谷田部茨、城鹿、西駒場鹿

の南磯濱の北より酒沼の下流来り會那珂湊より東海小歸
 此河漕運の利ハ上黒羽小止る又酒沼小も至る上流八年
 魚と産す鮭ハ秋時上下流共小網をまとも水戸城近き河を經小
 て獲たももの其味尤美なりと云ふ海口狹淺より大船を容き
 只松前陸奥より小船の漕
 運多

附

和名鈔下野國那須郡十二郷之二以下本國の域小あらされとも
 水戸封内な多を以て附載す

山田郷 今大山田上郷下郷是之按此郷那珂上流の東小ありて武
 茂郷ハ溪流の隔てありハ溪流

の北ハ本郷の地小て今封内の馬頭多部田谷川和見向田小口小
 砂大山田上郷大山田下郷九村のこ小あら其餘山田矢倉等

諸村ハ本郷小
 隸さ一形勢之

茂武郷 今武部村是之茂武ハ土人も唱えて此地の總稱と云

按此地宇都宮族茂武氏を稱して數世此地小居きり何如なきを
 健武部の茂武ハ轉さ一のす其故を知らる此郷本國那珂
 郡界と那珂河上流との間小ありて山田郷とも溪流の隔てあり
 ハ今封内の大那地大内矢又松野富山又那瀬武部七村のこ小あ
 り那珂上流の東より國界の西ま
 ての諸村ハ必本郷小隸さ一地なり

神名帳下野國那須郡三座並之一

健武山神社 今武部村小何尊按祭神ハ倭武
 尊なりと云ふ

續後紀承和二年二月壬寅下野國武茂神奉授從五位下此神坐採

砂金之山按此文小據ハ茂武ハ倒語小似たりさまと茂武氏ハ
 上見れハ其誤亦久今武部村小神社あり且土人のハ

と稱ひて以て鈔と史との異を定めて此社とをり神階ハ貞觀元年より贈位十度不及ひと多明應十年ハ後二位を承る

那須國造碑 大山田より那珂河乃上流を隔て湯津上村按大筒郷の地

大城村是々今の小所り元祿四年本藩より碑亭を建て墓田をも附

せらる碑云永昌元年己丑按持統天皇居攝三年四月飛鳥浄見原大宮天武那

須國造追大壹那須直韋提評督被賜歲次庚子年文武四年正月壬子

日辰節弥故意斯麻呂等立碑銘偲云尔仰惟殞公廣氏尊胤國家棟

梁一世之中重被貳照一命之期連見再甦碎骨挑髓豈報前恩是以

曾子之家无有媯子仲尼之門无有罵者行孝之子不改其語銘夏堯

心澄神照乾六月童子意香助神作徒之夫合言喻字故无翼長飛无

根更固按此文晦澁古拙甚了解小難永昌ハ唐則天武氏僭偽の

藤塚知明解曰持統紀云元年三月以投化新羅人十四人居于下野賦

由受廩安生業又四月投化新羅人居下野國カクあまを此項韓人の

歸化とを雇ひて其筆小出たる故小西土の年号を用ひたる

字謎隱語の離合體して忠烈孝養の四字なり銘夏堯心舜亦以命

禹よて忠六月童子ハメ一ノと六月として孝なりと云不頗其解

と得たる如其餘烈養ハ解を費に國造評督を並擧たる是

貳照再蘓よて此章提初天武朝國造方々後制度の改まる世となりて持統居攝三年小郡領小選ハきたると云ふよて國造

常陸國郡郷考卷十終

常陸國郡郷考卷十一

久慈郡 水戸 宮本元球仲笏 著

本郡ハ建置の始詳ならず風土記云古老曰自郡以南近有小丘體似鯨鯢倭武天皇因名久慈原云以こき景行の御時已不郡名なり且其名の義も亦明らり一て郡家の地とも考ふ一其故ハ大里村より西南中野村なる遠山と云ふ岡を望み其形恰も大魚の如し是大里ハ後紀弘仁三年十月小驛家と云々たる雄薩より即郡家の薩按雄大里と云りたる其地形勝一郡を控制する小便のミならず都府往復も利なるを以て後又驛家をも兼たり按近世も此地不郡治と置し事何れ偶然なれと

も其形勝自然想ふ一此地郡家たりハ猶又山田郷條と見る一杖國造ハ

國造本紀云久自國造志賀高穴穗朝御代成務物部連祖伊香色雄命三

世孫船瀬足居定賜國造按姓氏錄左京神別穗積朝臣下小神饒速日命五世孫伊香色雄命と有りて其餘ハ伊香

我色雄伊香賀色雄伊香我色乎伊香賀色乎小作且五世

ハ佐為連真神田曾祢連等の下六世孫に作る並從ふ一郡領の事

ハ見ろ所なり

四至 風土記云東大海南西那珂郡北多珂郡陸奥界岳

和名鈔郷十九及餘戸

岡田郷 今岡田村是之中世佐都東郡不入按弘安勘文佐都東郡岡田西岡田善養寺寶

徳二年鐘識佐都東郡西岡田郷佐竹知行目錄正長中佐都左岡田郷此庄々濫称なり佐竹義業子岡田冠者親義ハ此地を氏とと

なる

八部郷 今那珂郡八田村是なり按矢田部を省きて八田と名後小發多と訓たり小や和

名鈔伊勢壹志郡八太音鉢多備中下道郡八田音也多其餘諸

國小八田乃音とも音なり此地親鸞遺迹記已不見えたれと其頃

ハ何と訓や今ハ目慣すま小訓

倭文郷 今那珂郡靜村是之風土記云郡西里靜織里上古之時未

識織綾之機未在知人于時此村初織之因名北有小水丹石交雜色

似瑠碧火鑽尤好故以號玉川按瑠漢書揚雄傳云璧馬犀之隣瑠

壁也こハ馬腦の事なり倭文ハ主計式常陸國倭文卅一端齋宣式常陸倭

布二疋及新猿樂記常陸綾布をとり多々皆此地の出次所按古語拾

遺云天羽槌雄命織文布倭文遠祖釋紀云倭文青筋文之布又按萬葉集常陸防人倭文部可良麻呂ら此地小倭文部を置きたり

や玉川ハ今も水中碼腦と出下品な物ハ水底小遍布ると云ふ按此川源と郡の西北塩子村の邊より發し村田東野等の諸村と經て瓜連と岩瀬の間より久慈川小歸を瓜連ハ本郷の屬地

高月郷 高密誤今多珂郡水木村是之風土記云所稱高市自此東北

二里密筑里村中淨泉俗謂大井夏冷冬温湧流成川夏暑之時遠邇

郷里酒肴齋齋男女集會休遊飲樂其東南臨海濱原注石決明、蘇甲、羸、魚貝等類甚多

○按石決明ハ鰓より和名鈔小詳之蘇甲羸ハうに西北帶山野原注

推櫟榘栗生、鹿猪住之、この泉人聲登音小應して水湧出る事愈盛なる按豊後風

土記速見郡玖倍理湯の類うて異邦小も荊州記吐泉入蜀記不語灘潛確類書西寧衛の泉事言要玄の喜客泉笑泉をくて多く

り弘安勘文鹿島久壽目錄並小此地と泉と云ふ按此地式社有り其享祿三年の棟

札小泉大明神と稱せり今泉の所と麿の原其流海濱小河原子村

あり按今も本郡小隸に東鑑養和元年小源頼朝鹿島宮小寄たる塩濱を此

所の旧名なり按今も魚塩の利多

助川郷 今多珂郡介川村是之風土記云自此密良廿十里助川驛家

昔號遇鹿古老曰倭武天皇至於此時皇后參遇因名之矣按行方郡相鹿と同

一故事之後まで海濱と相賀と云ひ小野寄族相賀氏も居たり

一年小會瀬村と改む宗祇名所千向も本國の内小一

ミたまハそれも正し傳の傳りて改えたる一

至國宰久米

常陸誌料 卷之十一 久慈 三

大夫之時為河取鮭改名助川原注俗語謂鮭祖為須介鮭今鮭字と用ゆ和名

鈔康頼暨心方鮭按伊勢鎬矢官文書千葉氏の鮭と獻とる

鏡類聚名義鈔共鮭と佐介とありて名義鈔と鮭と載て俗作鮭非とも見えたり但蔵本風土記鮭祖鮭小作却て旧來の面目な多小

似たり注須介今陸奥南部及松前等の土人鮭の大なるを稱

ざりそまふて鮭祖鮭と得按中山信名曰魚鳥平家と云ふ

須介其軍兵の名小鮭大介鱗長と云ふ者何多も大鮭を須介と稱するよま此名なき古くを遍く唱えし介川宮

田村との界小溪流何り是助川の名從負へる所と見えたり今も

折小觸てハ鮭と捕る事ありと云ふ風土記の時ハ驛家のハ小

して郷の事とハ兼さる按風土記多珂郡條小久慈塚之助

云ふ後紀弘仁二年十月藻島等と共小此驛家ハ廢せり

美和郷 今那珂郡照沼村小箕輪と云ふ所何り是郷名の遺也按照沼ハ

真寄阿漕乃二湖小傍いたる所ふて酒列神宮寺なり美和ハ水

如意輪寺何り故一寺沼と云ひしと後照沼と改し美和ハ水

乃曲ふて真寄阿漕此曲なる村落なきハ按古河内郡真幡

れハ真幡美和訓同一と見えりされ此地も真幡小作り今筑波郡箕輪村ハ

義政ハ族小箕輪氏何りハ此地

志萬郷 今島小島等の地是ハ久慈川の東岸山何りて北より山田

川來り合する間小挾まる故小島の名何り按佐竹義篤康安讓狀

ハ今小島

と云ふ

真野郷 詳なれば 按和名鈔讚岐那珂郡真野訓万乃近江滋賀郡真

云古事記小麻羅とまうらと訓ミたる事何れも真ハうらの訓小

神前郷 今那珂郡米寄石神等の地是なる一 按米寄ハ神寄の轉

と以て村の鎮守とをゆ故の地名なり此石神何りて其地久慈河

義之石神の事ハ出雲風土記三代實録等に見えたり式陸奥

父來郷 久米誤 按温古堂古本和名鈔父米に作る因 今久米村是之

佐竹郷小程近者れ久米物部居た多所なる一 委ハ佐

按此地城趾ハ佐竹義治子 久米三郎義武ハ墟なり 竹郷小云ふ

太田郷 今太田村是之風土記云郡東七里太田郷長幡部之社古老

曰珠賣美萬命自天降時為織御服從而降之神名綺日女命本自筑

紫國日向二神之峯 按釋紀小日向風土記を引て云瓊瓊 至三野國

引根津之丘 詳後及美麻貴天皇 崇神之世長幡部遠祖多豆命避自三

野遷于久慈造立機殿初織之其所織服自成裳更無裁縫謂之内幡

或曰當織絶時輒為人見故閉屋扉閣内而織因名烏織雖 兵利劍

不得裁断今每年別為神調而獻納之也今幡村ハ其郷中なる神

調ハ主計式小長幡部絶七疋と何る是なる一 按鹿島久壽目録

村本佐竹系圖久慈東郡旗之何れも弘安勘文小ハ佐都東郡波

田之記より地界一定なり一ハ小や太田ハ佐竹隆義より天正の

未きて代代の居城ニ

山田郷 今松平村山田入云ふ所何々是郷名の遺ふて松平村即

本郷按村南山田川あり其源高倉小起り西染中染の間と過

慈河小入る其川の名即郷名の遺ふて風土記の風土記云郡東

里山田里多為墾田因以名之所有清河源發北山近經郡家南會

久慈河多取年魚大如腕之其河潭謂之石門イハト慈樹成林上即幕歷按

選吳都賦翼淨泉成淵下是潺湲青葉自飄蔭景之蓋白砂亦鋪翫波

之席夏月熱日遠里近村避暑追涼促膝携手唱玩波之雅曲飲久慈

之味酒是雖人間之遊頓忘塵中之煩其里大伴村有涯土色黃也群

鳥飛來啄咀所食按本文ハ山田川の勝を云ふ山田川山田入の二

名今小傳えーと以て和名鈔兵部式と相校して

風土記後記の誤と正しを得たり式考異ハ却て後紀風土記小後

誤イハト石門ハ今岩手村按飯野文書建武三年佐竹義篤と廣

河原小戦とちる處なり山田川の南大伴ハ今其名を失ふ土色黃

新驛小田兵部式小誤を載り按本文近經郡家南會久慈

河内郷 今官河内村是之風土記云自郡西北六里河内里本名古古

之邑原注俗説謂東山石鏡昔在魑魅萃集翫見鏡則自去原注俗曰

滅自所有土色如青紺用畫麗之原注俗云阿乎爾時隨朝命取而進納

所謂久慈河之濫觴出自猿聲原云以下畧之。按吉川久堅曰猿聲ハ牛音のも鼠聲のち同例の擬訓小

て上の注小をとり古古と訓きて地名小用ひたるは黒河春村曰古古ハ吳音久久を音も溪水の久伎出ると取たると猿聲小傳會

ぎ一なるく一又按本文西字 亦久慈河小抱う社たる地勢よて 衍六ハ廿字の誤なるを

名成得たり石鏡を生井澤村小有る俗月鏡石と呼へる是なり石

面平滑して光澤有る能百物の形を寫す銅鏡小異あらは按近年山

中自然火脉發動ありて此石焦燥をらる頗光澤を失ひしを照 映前小減せりと云ふ此邊の山往々此災あり今昔物語焼山關も

陸奥をれと 程遠うらは 生井澤ハ宮河内の北を社とも當時一郷の體ハ東

と見えたり阿乎爾ハ今こ社を出流を聞うす按今那珂郡上村田

類ざる土と出流土人是を土金青と呼ふ其地もの山涯より空青小 古久慈郡倭文郷をらんさま久慈川の西へ 本郷ハ當時陸奥

白河郡と接ざるを以て本國の域よりハ久慈河濫觴と云ふ一

今ハ依上郷本國小入たれも久慈河の源も亦ましく北をるなり

風土記云至淡海大津大朝光宅天皇天智之世遣使檢藤原内大臣鎌足

之封戸輕直里麻呂造堤成池其池以北謂谷會山所有岸壁形如盤

石色黃穿腕按恐肌誤獼猴集來常宿喫噉按此一節原本郡名因名久慈

何郷小屬を知らる且郡中此池小當へるを河内の上小何

りたる小因り谷會山ハ河内の屬地あらんと思へるを小

小附載せり猶 追考をく 谷會山ハ今棚谷村の山より河内郷に屬なる一

池ハのち其處を知らる山南の地小搜探をく按内大臣封戸

に將門記小久慈那珂二郡の藤原氏あり又佐都社小藤原良継と 配祭を云ふも封戸存せり故の事なる一中山信名曰大里村

よる天神林村白馬寺小至る所小鶴の池と呼たる大池ありしを慶長中天神林の人長大夫と云つる開墾して田とせしと云ふ白馬寺の傍小長堤あり天造地設みあらざる其入作小出たる知るは是古輕里麻呂の築きたる堤にて鶴の池の内大臣封戸の地ありり池を多し其水田今も霖雨經旬なる事ありしを潦水擁滞して當時大池たる様歴然たる其長二里小及ふ其池以北謂谷會山とありり棚谷山小接を池と聞ゆきと風土記の文行方郡自郡西北提賀里信太郡從此以西高来里の類ふく數里或隔てたる地を叙せしも其里數なきものあり郡名條の次小此一節ある其池郡家の地小近きなるなりと此説猶能考ふ

楊島郷

詳なら

按原本此叙次小據ハ久慈河小瀬を所して今川島村なり小もや阿らん又ハ後紀弘仁二年廢

驛と名を棚橋一小棚島小作まも楊を棚誤り棚島云

世矢郷

今瀬谷村是之多珂郡の界小阿りて本郡の山脚小迫りた

此地をれ其名義ハ迫谷なり

按東鑑養和元年世谷弘安勘文鹿島康永田牧注文並佐都

東郡世谷佐竹知行目錄文和中北瀬谷なりある皆此地なり

佐竹郷

今天神林村是之地小佐竹寺あり是郷名の遺なるの

小阿ら其天神林と稱もも天神本紀を饒速日命此地小奉祀して其天降りて時供奉天物部廿五部其一狭竹物部

り居たりし所なる故小郷名といなりたなる

久米物部り居元来本郡ハ饒速日命子孫國造なり

部屬の居地小其祖神を祭り後官社小列きたる時小其村名小

取て稲村神社とい稱をふ

なまこしハ筑波郡三村郷の小田小同しく別小佐竹と稱さる所ハ
 ふらりりなるく因て神號も稻材とも書た多を筆畫の近きま
 まに神名式國史とも小稻村小ハ誤りり或云村ハ樹の省文小
 て誤ま多ふハ何うすと巧なる説なきともいふ其例を知らぬ
 今七代天神たりと云ふ社こそ必此稻村神社を依りて社
 丹羽郡出羽川邊郡並稻木郷あり尾張ハ式稻木神社あり古事記
 垂仁卷大津日子命者稻木之祖とも見ゆ又武藏入間郡物部天
 神社と云ふも何れ又按此郷ハ佐竹義業始て居り佐竹氏と稱し
 其三世義政亡いて後弟太田四郎隆義太田小居て佐竹氏を継ぎ
 其二男二郎義清を稻木に置き稻木氏と稱し宗家ハ郡郷庶族を
 村名を稱して氏とさるる大方當時の習なり後又佐竹族小天神
 林氏を稱し
 ともあり

高市郷

今那珂郡石神村より下流久慈河小臨みて高内

今龜下村の内竹

瓦按高市河原と云ふ二地なり是本郷の遺之風土記小所稱高市自此

東北二里密筑里とありて此地其舊なるを知らず一河流の泛
 溢久年して地形轉變せし所なり古郷の様今考ふべし
和按

名鈔大和高市郡訓多
 介知今たけいちあり

木前郷

今那珂郡南酒出北酒出の二村共小木寄と云ふ所あり是

郷名の遺之按太田の地ふも木寄ありて古文書等に
 も見えたりとそまハ太田郷の地なり

佐野都郷

野行佐都ハ今里宮村是之風土記云自此太田以北薩都里

古有國極名曰土雲爰免上命發兵誅滅時能令殺福哉トル所言因名佐
 都北山所有白堊可以塗畫之東大山謂賀毗禮之高峯即在天神命
 名稱立速日男命一名速經和氣命即坐松澤松樹八俣之上神崇甚

嚴有人向行大小便之時令示灾致疾苦者近側居人每甚辛苦具狀請朝遣片岡大連敬祭祈曰今所坐此處百姓近家朝夕穢臭理不合坐互避移可鎮高山之淨境於是神聽禱告遂登賀毗禮之峯其社以石為垣中種屬甚多并品寶弓梓金器之類皆成石存之凡諸鳥經過者盡急飛避無當峯上自古然為今亦同之即有小水名薩都河源起北山流南同入久慈河原云以下畧之○按式薩都神社風土記薩都里因名佐都和名鈔佐都これ民部式云凡勘籍之徒轉頓部姓注丹比部或變永吉名為長善如此之類莫為不合之同く文字ハ姓名地名とも小一定なり同訓なき文字の異なるに嫌ひなり聖ハ其近地町谷村之社を産み里宮より出玉をさうらふ松澤ハ其地詳ならず賀毗禮之峯ハ本朝俗諺志小此神社の事と載とて昔々うひま山入四軒の山上小

社ありしと云ふと阿まを今入四軒山なるを何の頃より又里

宮村小ハ遷さるふら佐都河ハ後小出せ按上の免上命ハ國造船瀬豆屋ウ父祖ふも

や古事記開化皇子小免上王あるとを別人なり

餘戸里 詳ならず按伊豫伊豫郡餘戸を今與古と呼へると聞事ハ本郡良子村其音與古小近く又地勢て郷名を

安排をまゝ高倉天下野等ハ佐都河内此二郷より隔絶して係屬小難う多し若此地餘戸なりやなと想像するまゝ小して皆其證驗ハある事なり

右十九郷及餘戸久慈河西ふる倭文八部美和神前高市木前六郷ハ今那珂郡小入る密月助川二郷ハ多珂郡小入る其餘岡田志萬久米太田山田河内世矢佐竹佐都九郷真野楊島餘戸陸奥白河郡依上

一郷とを合とく今本郡之

和名鈔陸奥國白河郡郷十七之一

依上郷今保内と稱する四十二村は地是之其搗村小依上と云ふ

所あるを舊名は存する少く中世保と名を依上保と唱えしより

今ハ保内と呼へる事と成まると白河文書建武元年巳小當國依上

保と見ゆ同二年十月延元四年四月文書小ハともや白河結城氏知

行と里後結城親朝武家小降り其新知行を削られし時小此郷と

も失ひて佐竹氏は有たり佐竹系圖小依上氏何るハ此時小領地

となり支族と置たる小因る後依上宗義山入與義と共小上杉禪

秀の黨ふて亡いたるより復再び結城氏朝の地と名を足利持氏

應永卅年九月白河彈正少弼小與る状小陸奥國依上保佐竹依上三郎跡

事為料所預置也、こ見ゆ上杉憲實の依上保御判御拜領目出候

こ云ふ状も何り密蔵院永祿本佐竹系圖小竹道義人法号御代より山

入與義の族取合て南郷保内と白河へ被取たりこ何るを此時の事

と記さる其系圖義舜の下小此御代保内被取返也こ何りて白

河郡八槻大善院永正十三年七月新三郎へとある義舜の状小南

了坊出仕申候間依上保内之且那同行之事如前々可致成敗也こ

書たるを按此地修驗ハ今も大善院支配なり此取返せる時小出たり状なり今

下野宮村近津社永正十一年義舜寄進状小々依神之保黒澤矢田
 野内六百五拾貫文之所近津へ寄進之目錄如件と有り開田惠福
 寺元龜四年鐘識常州佐竹寄神保黒澤村下野宮近津山にも刻と
 り按此鐘本近津社乃鐘なりと云ふと云々下野宮ハ宮の号小
 テ村名ハ黒澤之上の黒澤も同地より多珂郡黒澤小々有り
 又常州に記さるる佐竹義篤寄進とるハ溝山鐘小々天文戊戌十
 一月常州ハ溝山に記有りハ溝ハ續後紀延喜式共小陸奥白河郡
 の山なるを明白なるふく識
 吉成氏所蔵天文五年の書小々猶
 依上小作る開田村十二天祠永祿六年鰐口識小奉懸依上開田村
 金澤十二天鰐口と勒有り豊臣家文祿檢地の時小佐竹氏の領地
 なる以て遂小久慈郡小隸と

神名帳久慈郡七座

大一座 小六座

長幡部神社 今幡村小有り風土記太田郷小出に 祭神其文小見ゆ
 按古事記開化天

皇皇子日子坐王子神大根王者三野本巢國造長幡部連之祖神大
 根王亦名八爪入日子王國造本紀春日率川朝開化彦坐王子八爪
 命定賜國造と有り其時と考る小開化皇子國造小たり給ひ
 小々多綺日女の後ふる多豆命ハ三野と避て本國小遷らま
 了猶其族の三野小留まらるも其統領とて長幡部連ハ置
 りまると見ゆ式武蔵賀美郡小々長幡部神社有り又按神階ハ仁
 壽元年正六位上なる其後十度の贈
 位して明應十年より正三位なる

薩都神社 今里宮村小有り風土記佐都郷小出に 祭神其文 續後紀
 小見ゆ

承和十三年九月丙午奉授勳十等薩都神從五位下尋授從五位上
 三代實録貞觀八年五月廿七日庚午授從五位上勳七 按恐
 十誤等薩都

神正五位上按恐下誤十六年十二月廿九日癸未授正五位下勳十等薩

都神從四位下按從四位下恐誤此時正五位上より後九度の贈位より明應十年ハ正一位なり

天之志良波神社 今白羽村小按古語拾遺云天太玉神率諸部神造幣帛當此之時伊勢國麻績

之祖長白羽種麻以為青和幣今衣稱白羽此其縁也此事ハ舊事記にも亦載たり三代實録貞觀八年五月

廿七日庚午授正六位上白羽神從五位下按類聚國史神號天字あり後九度の贈位あり

神階ハ從二位なり一佐竹系圖ハ此社義舜子今宮永義本國修驗の長より別當たり

天速玉姬命神社 今多珂郡水木村小三代實録貞觀八年五月

廿七日庚午授正六位上天之速玉神從五位下按中世泉大明神と稱す

日癸未授從五位下天之速玉神從五位上密月郷の下にあり神階

ハ後贈位九度あり明應十年ハ從二位小なり給ふ多敷

靜神社名神大 今那珂郡靜村小按和名鈔上野那波郡倭文式倭

之土利式倭文神社あり淡路三原郡倭文音之止里下野都賀郡倭文今志鳥村あり美作又米郡倭文淡路以下三所ハ式の神社なり

叔何所も志よりと唱ふ本郷ハ風土記ハ靜織里より多敷神號を靜と稱す社ハ初より多敷あり後神號小從ハ志より

ニ呼ハるもや主計式駿河國倭文卅一端と見えて神名帳富士郡倭文神社あり駿河風土記ハ志津機社祭栲幡千千姬與稚日女尊

原註志津機之名者本女功依兩神名與其功業而號之と記ハ神代紀ハ倭文神建葉槌命古語拾遺ハ天羽槌雄命織文布倭文遠祖神

名帳小大和國葛下郡葛木倭文坐天羽雷神なり社ハ倭文ハ建葉槌命なり一ハ本社の傳ハ祭神手力雄命より攝社小建葉槌

命を祀りて高房社と云ふ高ハ建ハ房ハ葉之と駿河の初より異神ありと云ハるも同一なり猶能博く考えて精しく定む

三代實録仁和元年五月廿二日丙午從五位靜神授從五位上日

本紀畧寛平九年十二月三日甲辰奉授靜神位一階按正五位下之後贈位九度と

經たきと明應十年小ハ正二位の階なり

稻村神社 今天神林村なる七代天神社と云ふ是を一説佐竹郷小あり

續後紀嘉祥二年四月庚寅稻村神預之官社水旱之時祈必致感

三代實録元慶二年八月廿三日丙戌授正六位上稻村神從五位下

仁和元年五月廿五日丙午從五位下稻村神授從五位上按後贈位九度なり

ハ明應十年ハ從二位なり

立野神社 今那珂郡上小瀬村小なり按古ハ八部郷又按式伊勢飯高郡尾張丹羽郡同號の社

あり本社ハ相傳て大和國龍田立野風伯神社小同ノ級長戸邊命と祭ると云ふ三代實録貞觀十六年五

月十一日戊戌授正六位上立野神從五位下按後贈位九度なり

るハ土人曰昔ハ社山の半腹小ありを後平地小移して今ハ小瀬川の邊小あり旧趾と今も立野山と云ふ上る事五十級許小

平地あり是社の旧趾なり

同上陸奥國白河郡七座大一座之六座之小並

八溝嶺神社 其山上小あり續後紀承和三年正月乙丑詔奉充陸奥

國白河郡從五位下勲十等八溝黃金神封戸二烟以應國司之禱令

採得砂金其數倍常能助遣唐之資也按此文小據ハ其神ハ山靈小

一今山中觀音堂の側小金玉水と稱する泉あり古金礦と掘一

石都都古和氣神社 今下野宮村近津大明神是なり按近津又千勝小作

其稱の由詳ならず式都都古和氣神社名神大ハ一宮記陸奥一宮大己貴男高彦根神名帳頭注味耜詔彦根とあるハ槻の近津明神ハ後紀承和八年正月奉授白河郡勲十等都都古神從五位下是なり式伊波止和氣神社ハ頭注手力雄命とある馬場の近津明神ハ後紀承和十年九月授勲九等石波止和氣天神從五位下是なり神名も相似て近津明神と稱するも同一也石都都古和氣神社ハ必下野宮の社なる事疑なり石都都古ハ石門都都古と合稱する小據ある本社ハ二神を合祭と一社なる一慶長九年二月彦坂小刑部の奥州南郷之内寺社領付可申書上帳小ハ槻近津ハ殿舎十一宇先御神領三百七拾三石六斗餘馬場近津ハ殿舎八宇先御神領三百六拾三石とあり豊臣檢地小削られたる數と見ゆまじと猶盛なり下野宮近津も依上郷の下小舉たる佐竹義舜ハ寄進状より其大社なる事知らるなり頭注伊波止和氣を手力雄とある古事記小ハ手力雄神天石門別神と二神と並舉て且天石戸別神亦名櫛石窗神亦名豊石窗神此神者御門神也次手力男神者坐佐那縣也とあり同神とあり佐那神社ハ式伊勢多氣郡なり古語拾遺小ハ令豊磐間戸命櫛磐間戸命二神守衛殿門原注是並太玉命之子也とあり齋部氏の祖神とす各其說異

な色とも畢竟此二神と白河關の近地小祭とハ關門鎮護の為此見えたり下野宮村と稱する古くハ黒澤村なるをハ溝と共小一郷小式社ありて地勢小ありてハ溝と上の宮近津と下の宮と唱えりなり地名となすハ上野宮村のハ溝小近とを以て其由と思ふ

庄河

佐都庄 後宇多院御領目錄小佐都庄寺九東方按此四字詳ならず嘉元

四六月和泉美濃丹波伊勢等の地同照慶門院小讓与給へ

る院宣とも載り其後何人の傳領とせん白河文書小佐竹義俊

文明三年狀よりて郷庄の内東河内西河内并深萩之村佐竹諸

士知行目錄正長小佐都庄岡田なり今小澤十二郷と云ふあ

たゞ此庄の地なり 按弘安勘文佐都東郡内岡田、税所貞治五年明徳三年二通の奥郡切手小上小澤二十丁有り

て皆庄の字なり那珂郡石寄とせも小庄なりと所も有り

久慈庄 佐竹義篤文和四年讓状小久慈東郡内高倉郷内久慈庄と

委しく記たると此庄有り事知るとされと福小ふて其稱著

ハまさまりの

久慈河 萬葉集本國本郡防人丸子部佐杜の歌云久自我波波佐氣

久阿利麻豆志富夫禰爾麻可知之自奴伎和波可敞里許牟この河

陸奥白河郡白河小源して已小久慈河名有り南行して八溝山

の北よりて山中九谷来會大瀑布とせし大梅村より久慈瀑と

云ふ又一源有り棚倉城の東北小起り更二源有り八溝山麓の山

本村と二國界の珊瑚室山と小起り此三派次第小久慈瀑の流小

合し落合臺宿植野地三村を歴始て本國依上の地小入り下野宮

ふて其流小舟と浮ふりそれより南行して八溝川川山よりて押川大

大澤川大澤よりて四度川水木よりて湯澤川下小川よりて十石川舟生の六小水を

依上り内小納まきり南流し淺川川島よりて山田川川合よりて佐都川落合

茂宮川留村よりての四水を東より納て更南注し西岸ハ今那珂郡山方

野上岩寄久慈岡横瀬宇留野下根本上下岩寄門部酒出米寄石神龜下豊岡十五村東岸

ハ久慈郡西ノ内生井澤東谷小貫辰ノ口塩原小倉富岡鹿河原上

下荒地川島小島栗原上下河合落合堅磐土木内留兒島廿村 豊岡の東兒島より東海小歸

海口狹小漕運の利なり

も凡下野官より海口小至る道程十七里あり
佐都河 此河源と多珂郡北陸奥界の山より發し西南行して大管
小管の間を南注し本郡小入り東西河内の間を過て里宮村の東
と經太田の方より来る小流と西小容之内田の西より来て落合
より久慈川小入る管より落合小至る大率南流十里小近し淺
流より舟楫を受るに堪へば年魚を産する甚肥膩しと國
溪流在處こそ産されとも此川は品小敵をものなり中世久
慈河は東なる本郡の地錢三分一久慈東郡佐都西郡佐都東郡と
稱とる久慈河小近し方小久慈の名を負はせ其餘ハ此川を界

小て東西と呼ぶなり

附 孝女 節婦

三代實錄貞觀四年五月十日丁丑久慈郡人丸子部妹人進位三階
以孝於父母也

類聚國史弘仁八年閏四月戊子常陸國人長幡部福良女授少初位
上免其戸租終身以旌節行也福良女同郡吉彌侯部就忠之妻也夫
亡之後號泣不絶哀感行路

常陸國郡郷考卷十一 終

常陸國郡鄉考卷十二

多珂郡

水戸

官本元球仲笏著

風土記云斯我高穴穗官大洲照臨天皇成務之世以建御狹日命任多珂

國造茲人初至歷驗地體以為峰嶮岳崇多珂因名多珂之國原注謂建御狹日命者出雲臣

同屬今多珂石城所謂是也風俗說曰薦枕多珂之國○按國造本紀高

國造云志賀高穴穗朝御世弥都侶伎命孫弥佐比命定賜國造又阿波

國造云志賀高穴穗朝御世天穗日命八世孫弥都侶伎命孫大伴直大

龍定賜國造姓氏錄云出雲臣天穗日命子天日名鳥命之後也武烈紀

云舉母摩矩建御狹日命當所遣時以久慈塚之助川為道前原注去郡

三誤十里今猶稱道前里陸奥石城郡苦麻之村為道後按今岩城郡驛程の西北行六其後至

難波長柄豐前大宮臨軒天皇孝德之世癸丑年白雉四年多珂國造石城直美

夜部石城評造部志許赤請申惣領高向大夫以所部遠隔往來不便分
 置多珂石城二郡原注石城郡今存陸奥國堺内○按堺ハ境の義ナリ
呂命定賜國造トモ成務其朝已小石城郡アリ今又石城評造ある小
新小二郡を分置するを何如なる故らう評ハ繼體紀云韓地有背評
稱熊備已富理梁書云新羅俗其邑在內曰詠評の義うて評造ハ又評
替小同く郡領稱なるハ天武紀衣評替那須國造碑評替被賜
大神宮儀式帳評替仕奉ハ皆郡領と云ふ儀式帳又難波朝廷天下立
評時トあるハ即孝徳朝國造其制と郡領小改免らま一事と記を
るト此文小國造評造トあるも互稱せしむる所ら舊制ハ國造
と新法其郡領とを分たん為しこそまは本紀風土記ハ全く異な
る傳して石城評造となりたるを請申せし後なるを行方郡條大建
其類ふて後稱小役ひしなるハ一扱此後本郡郡領ハ猶美夜部たり
一也詳
其道前里飽田村以下道口
郡小出
此建郡の始とる郡名國造且分
 地事に及へ續紀養老二年五月乙未割陸奥刻本作常陸之石城今從古本

標葉行方宇多巨理菊多六郡置石城國割白河石背會津安積信夫五
 郡置石背國割常陸國多珂之郷二百一十烟名曰菊多郡屬石城原作
從地理
國馬按初本郡を割て石城を置し時ハ孝徳朝天下六十餘
訂之國と定まると時して石城の地必常陸國小を何ら
今多珂を割るを全く本國其域之此頃石城石背のこ小何ら出羽
國をも置るま後石城石背二國ハ廢して故如く陸奥なる
建國の時旧菊多と六郡小混したまふ此後の石城ハ其最初小置
る郷地ミハ増減あるハ旧菊多殘罷たるを以て本郡を割たる地
と又別に菊多と名つけ二國廢し此風土記其後又本郡四郷餘を割
して後も永く陸奥小入まり
 て菊多郡と名は石城國小隸と其國廢して後永く陸奥とな

按和名鈔菊多郡其郷ハ酒井河邊山田大野餘戸とのこ何ま本
 郡を割たる二百一十戸其まなり今も酒井小山田大野等の村
 河邊餘戸ハ其
 地ハ其詳なり

四至 風土記云東南並大海西北陸奥常陸二國堺之高山按此四至誤あり西

久慈郡北陸奥常陸二國堺之高山良陸奥石城郡と云ふ一西北二國の堺とてハ本郡全く本國小接續なり且此時々勿去來關本國の域小ありて其良猶菊多郡の地あり之

和名鈔郷八

梁津郷 梁梁誤今大津村是之梁は大小轉とて那珂郡阿波山小

同 按赤濱妙法寺過去帳弘治の頃已小大津之

伴部郷 今友部村是之田尻ハ古田後小く此郷中なる一後紀弘

仁二年十月助川藻島二驛を廢して田後驛と建つとありる此村

之風土記云國宰川原宿祢黑麻呂時大海之邊石壁雕觀世音菩薩

像今存之矣因號佛濱原云以こ石像今村中觀泉寺境内小あり

高野郷 多珂原野より其地理を推考ふまゝ今高戸村是なる

一地小高野山高山寺と云ふも有り

多珂郷 今上下手綱村是之古郡家乃地なるを以て中世大高と稱

きり今大高寺大高臺たり其地小ありる其名殘なき 按大の字は用事ハ上

の行方郡那珂郡小も出たり手綱ハ古海濱の名と見えたる萬葉集手綱濱の歌

あり曰遠妻四高爾有世婆不知十方手綱乃濱能尋來名益

藻島郷 今伊師町村なりと云ふ所あり是伊師本郷伊師瀧伊師

濱等諸村と共小本郷之風土記云郡南廿里藻島驛家東南濱碁

子色如珠玉所謂常陸國所有麗若子唯是濱耳昔倭武天皇乘船浮

海御覽島磯種種海藻多生茂繁因名今亦然原云以伊師濱

南川尻村小貝濱呼ふ所種種小貝五色の小石多く砂

も顆粒麤に金銀光彩是碁子濱之伊師石同音して碁

石故の地名之後紀弘仁二年十月小此驛家之廢して田後小移れ

新居郷 今仁井田村是之按和名鈔上總武射郡神岡村小新井八幡

宮小津田村に仁田山皆其郷証按妙法寺過去帳弘治永祿

頃新田又ニヒタ仁井田ふ年久しき事なり

賀美郷 名義地勢と考ふ今大菅等あたりの郷名按和名鈔

武蔵賀美郡訓上て地上將其餘諸國小賀美郷十七

賀美資母二所賀美那賀資母三所那珂のなる六所なり或曰

後紀弘仁二年十月廢驛となる棚橋此郷に屬地今折橋

なる棚を拆作して遂折と誤なると此說事迹

小取て甚理は按信太郎條出風土記黒坂命根角枯

折橋ふり久慈郡出なるなり弘仁小至り其迂廻と厭

ひて廢驛となるなり今も折橋ハ久慈郡太田の方

より陸奥棚倉小至る小ハ必

道口郷 今上下相田村是之道口ハ道前小同按和名鈔越前と古

後と古之乃美知乃之利と云ふ其佗備前備後以下前後同

訓こ之を國大路口と與となる出雲能美郡口縫丹波丹波

郡口枳み類を郷として此口を國造本紀道口岐閉ハ古事記道尻
小作る何まての誤り此地ハ東海道陸奥小入る道の口奥なり

風土記云其道前里飽田村按上小古道後道前と擧て今又石城を
割たり後改まりたる道前と叙る故小

其字有り出羽秋田も古飽田より音阿伊太古老曰倭武天皇為巡東陸頓宿此野有久

奏曰野上羣鹿無數甚多其犖角如蘆枯之原其吹氣似朝霧之立又

海有鰻魚大如八尺諸種珍味遊理多者於是天皇幸野遣橘皇后

臨海令漁相競捕獲之利別探山海之物此時野狩者終日駢射不得

一実海漁者須臾才採盡得百味焉獵漁已畢奉羞御膳時勅陪從曰

今日之遊朕與家后各就野海同爭祥福原注俗語
曰佐知野物雖不得而海

味盡飽喫者後代追跡名飽田村

右八郷今現存ものも小何ら久文祿より久慈郡助川密月二郷成

増加して今本郡なり

神名帳多珂郡一座小

佐波波地祇神社 今小津田村小何り按社傳天日方奇日方命を祭
る一名阿多都久志臣命又名

佐波波夜遲奴美命今ハ大己貴事代主二神を配祭と云ふ延喜

式考異云諸本訓左ハ八知乃祇神社按佐波波蓋地名當訓沙半巴

能久爾津賀美此社舊澤山の西嶺小何り車城主丹波守義秀の
時其城鎮守を為今の地小移ると云ふ澤山ハ佐佐波を省る

駿河國阿波波神社山を今淡ヶ嶺と云ふと聞く澤山
と同例之三代實録小據を古く佐波との唱え事も何々三代

實錄貞觀元年四月廿六日辛亥授正六位上佐波神從五位下按此
後贈

位九度何きを明應十
年小正三位なり

庄山關

多珂庄 税所奥郡切手分在所等事と云ふ二通也 貞治五年二月 明德二年六月 文

書小多珂庄 下砥 十一丁と有り 按弘安勘文嘉元田文共小 砥上ハ車の古名也 佐竹義

篤 貞治元年 讓状小多珂庄南萩津郷北小木津村高萩村櫻井郷木皿村

關本郷別府村 按今 佐竹家士知行目錄 文 和小多珂庄手綱大豆貝 按

なふとあまを皆庄内と見えたり 按戸村本佐竹系圖小島根安 良川大塚白庭相田をも多賀

在奉公人と記さハ 博さ小過ふ似たり

折藻山 萬葉仙覺鈔云常陸多珂郡折藻山ヲモ風土記歌ニハミチ

シリタナメノヤマトヨメリ 是風土記ニ折 道後と云ふハ據ハ相 藻山あり

田よりハ陸奥小近き方より藻島小海藻多生と有り今磯原村

海中に峙立たり天妃山こそ此山を名へて此後夫木抄等に田邊

磯あるも此たふえの轉りて異地小を有り 夫木雜ハ 引懐中集 たふ

一に磯 いたちなふたをふの磯小をふりや風能ふらぬ小原の せうらんいつくとてふみまををふたまつさをこもる をぬくのいそならふとに按宗祇名所千句小鹿島野や露うけみ たり雨過てたれく磯小落る夜お月と有りを見て田邊磯ハ鹿 島郡田邊村なりと思ふを誤る千句歌體ハ一首小名所を彼是と 讀合と一歌ともして本國の内を廣く咏したる之餘は歌と讀 して其體裁を 悟る也

角枯山 今黒坂村小何々俗立裂山と云ふ是ハ風土記ハ仙覺鈔小

何々 信太郡 不出 黒坂命事故事より村名とも有りハ黒前山の故也

按山上高七尺餘方二丈許石あり兩断して一ハ立一ハ倒る其
截割せる様西瓜と破き多小似たり因て立裂山と云ふ源義家
事と傳ふ妄誕云ふに足ら古史通小角
枯と以て角穢小傳會を亦厭ふ

勿去來關 此關小町家集に そのめう海士に申く一のそと路
小名こそその關も其地を法なると

見えたるを始ふて枕草紙小のむくは關丁をいふ小思ひ返

たるならんいと志らまほ 今を述ぶるその關といふや

あらんとあつを春曙抄小くまこの關とそあり あつの關も

一名小似たれとたし れらはと注を是此關一名菊多關あり

按判官物語云いたちの國とみちのちとちのちといふまんとこの關
と申て古本節用集云菊多關見于源氏吐懐篇源氏細流云奥州菊
多郡關なり俗く
きくの關と云ふ 二國を界なれとも陸奥の守る所なる故小其國

小屬より三代實錄貞觀八年正月鹿島神宮司言嘉祥元年請當國

常陸移狀奉幣向彼 陸奥所在鹿島神子神 而陸奥國稱無舊例不聽入關官司等

於關外河邊被弃幣物而歸と云ふ小據ハ嘉祥の前を關ありし

按此文此關のハな多れと其國小入るを
必關と踰ゆきを此關え自其内より 或云奈古曾ハ波越な

る 按名越名古屋と云ふ地諸國小多し大り
ハ波越其義この小町歌も其意あり 古ハ此關海邊

小あり と後山路小を移さる或云神代卷自此以還雷不敢來

と古訓いうつちたこそと讀小同 蝦夷等ハ此方へふこそとい

ふこそ是亦一説 按續紀神龜元年小陸奥海道の蝦夷反さる大
掾佐伯兒屋麻呂と殺し本國に百姓財物を焼

損をらせ給復けり を關
と出て侵掠せし故なり 此關其故事ハ源義家櫻歌の事獨著

守 隆 言 米 卷 三 香 本 藏

まて神明鏡小も載たり 按後三年記東鑑小據ハ義家陸奥守とな

里任小赴々ゆを永保三年九月之百練鈔

小據ハ任と去たるを寛治三年三月之と 奥羽觀迹聞老志云此地

まを此關と踰たるハ歸京時之事也

往昔多櫻樹五十年前枯槁盡爾後領主祖父内藤左京兆義泰植百

餘株今所存纔三十餘株と記をま今又古木五六株或餘を

小過 按今所研通路を初慶長小新町富民篠原和泉産所便小

岩壁を鑿開き洞穴の中狹往來とを行旅は通ふもの

も何より新町庄屋酒井半左衛門承應元年官小請ひ山頂ま

て所開き始て坦途たり兩山懸崖高五六丈より七丈餘之長廿四

間廣三間餘東ハ本國九面

濱北を菊多郡關田村なり

附録 本國式外史小載たる贈位所神八座之二其所知るべし

る者

飛護念神 類聚國史貞觀十六年五月十一日戊戌授常陸國正六位

上飛護念神從五位下 按飛護念ハ彦根なる一古事記姓氏録と

も小茨城國造ハ天津彦根命也後ハ何を

國造ハ其管内小奉祀せる神小や或云味耜詔彦根命ハ白河郡都

都古和氣神社より今近津大明神と云ふ今真壁郡坂井村近津明

神も同號なれを同神なり 此祠を故古新治郡川曲掘一

今地小移さりと云ひ傳て續紀小川を掘開る所小神社也

と記をま舊祠なり若

此祠小あらざる

河江神 三代實錄元慶元年六月廿八日丁酉授常陸國正六位上河

江神從五位下 按青山延壽廿八社考云今久慈郡川合村神祠曰河

井明神蓋江井國音相近疑是也この説小據ハ河井

ハ川合なるた似たまも今其祠一村鎮守小して何故小

贈位りりや疑ふ一川合ハ山田川久慈川合流所地の名なり

富 隆 言 米 卷 三 香 本 藏

佐竹系圖小佐竹義重妻河井平六三郎忠遠女とある若此地の人より河井に作事あり和名鈔甲斐八代郡川合音加波井をさる河合河井八元より同一黒河春村曰江井の通ハ枚舉小違なり上野群馬郡白衣ハ中世白井となり松枝ハ松井田とな

多賀城碑云多賀城去常陸國界四百十二里

按是久慈郡北界より多賀國府小至る里數なる

一此六里と今一里として算すれば六十八里餘今國界より仙臺まで五十里小足らばと云ふ此碑又去下野國界二百七十四里とありて今道四十五里餘と云ふ二國より多賀まで遠近大異なりと云ふ小本國より近き事廿餘里之官驛小迂直ありて里程同し

常陸國郡郷考卷十二終

追補

古寺

此書初稿佛寺ハ各其縁起も巧き記さるを今熟思小史格に出るる省畧を廢らるるを以て追補を

國分二寺

古茨城郡茨城郷國府

今新治郡小有續紀天平十三年府中平村

二月に創建

僧寺ハ其地を猶國分と呼ぶ府中市北小在里史を考ふ此寺諸國共小金光明最勝王經各十部を

置て七重塔も聖武金字御筆の金光明經と納免寺號ハ金光明四天王護國之寺又國分金光明寺國分僧寺國分寺とも云ふ本尊ハ金像丈六釋迦常住廿僧寺封五十戸田百町小至る居寺ハ市ノ里西小居寺原より今大礎石散在る曠原其遺跡之此寺法華經を安置し寺號ハ法華滅罪之寺又國分法華寺國分居寺とも稱を本尊丈六彌陀常住十居田五十町小至る按國分と云國家祈禳の為小毎國別小二寺を立し故に稱を壹岐對馬二島小ハ島分寺と呼ぶるも其義知る續紀天平九年二月詔毎國令造釋迦佛像一軀挾持菩薩像二軀兼寫大般若經一部と云ふと元亨釋書小引て是國分寺之權輿也と云ふと神龜五年三月金光明經六十四帙六百四十卷頒於諸國國別十卷天平十二年六月令天下諸國脫法華經十部并建七重塔焉と云ふハ皆二寺を建る漸之

天平十三年正月故太政大臣藤原朝臣等家返上食封五千石二千戸依舊返賜其家三千戸施入諸國分寺以充造丈六佛像之料
云云事創寺於前小何々其事を終述たる之又東大寺要録天平十九年九月廿一日勅充金光明寺食封一千戸廿六日下符此時本國筑波郡五十戸なるハ大倭國分寺封五千戸小至々の漸りて本寺の封小ハあらざるべし
 敬供養流通此經王者我等四王常來擁護一切災障皆使銷鑠憂愁疾疫互令除去所願遂心恒生歡喜とありて金光明も般若部中の經也ハ同く崇奉何れし由之
 居寺ハ先小也廢も僧寺ハ天正十八年佐竹孫兵大掾清幹と攻亡とし時の放火小灰燼多を後又再興と云ふ

神宮寺

鹿島郡塙村古趾何ち

舊大官司中臣氏宅地の邊

三代格天

安二年官符云天平勝寶中官司中臣鹿島連大官司の祖先大領中臣

連千德等与修行僧滿願所建承和四年預定額寺又嘉祥三年官符

云應隨闕度補僧五人

此時部内民大部須彌磨等五人を度して住持としむ

三代實録貞觀十

七年三月庚子勅遣使者施入幡三十四流國司載帳永以相傳使者

奉幡之日修善諷誦便以常陸國年進内藏寮布百段充觀料と記と

按滿願ハ京師入靈跡を巡りて天平勝寶元年鹿島小至り大般若經六卷と書寫し神宮寺と建つ八年ありて駿河小住に宮根山小練行し其三所社と建つ後伊勢小赴き桑名郡多度神社側なる道場小居り丈六彌陀像と造る神託ありて神坐山の南小堂を構之佛像と安置し多度大菩薩と號を實天平寶字七年十二月廿日之是所謂多度神宮寺なり後再び宮根小還り練行初の如く聲響昇聞召小從ひ京師小赴き途りて寂は年九十七常小方廣經と課し一萬卷代看閱了因て又萬卷上人と云是鹿島卷宮根多度西縁起小見申續紀天平神護二年七月遣使造丈六佛像伊勢大神宮寶龜十一年二月神祇官言伊勢大神宮寺先為有崇遷建他處而今近神郡其崇未止除飯野郡之外移造便地者許之との二件縁起と合とり續後紀嘉祥二年正月伊勢國多度大神宮法雲寺

所々満願寺にて朝使の丈六佛と造らるゝハ別小有ハハ講小
と云何まゝをあるは神宮寺伐建ハ鹿島天下の最初小伊勢是
小次く事明之畢竟聖武孝謙の御時ハ神佛の事甚濫小成て天
平十三年閏三月奉ハ幡神宮金字最勝王經法華經各一部度者十
八人と云ふ事も起リ遂ハ彌勒寺を建て大菩薩の踊と云え奉ま
り續後紀小至リハ賀茂社岡本堂の事ありて承和十年正月勅
令十五大寺及七道諸國分ニ寺并定額寺名神等寺講仁王般若
經と見ゆまハ此項ハ名神社と佛寺ありたり文徳實錄
齊衡三年五月小能登國氣多越前國氣比西神宮寺の事ありて次
て賀茂松尾の讀經も初まきと其後ハ海内神社遍く佛寺と建る
事とハ後寺數遷リ慶長中より宮中阿佐臺小あり
成せり

今社領内配分
三十石小常陸

帶の分百石と所務と
本國の古刹上三寺小次く徳一開基の筑波郡筑波山中禪寺最仙
開基の同郡推尾山藥王院行方郡尸羅度臺上山西蓮寺圓仁開基
の那珂郡村松日向寺今茨城郡栗崎佛性寺及吉田藥王院等皆
延暦天長の創立なる事各其寺の縁起
舊記及清音寺年代記等小見えたり

